

## 大学生が振り返る中学校時代のキャリア教育

戸 田 浩 暢\*

(2015年11月13日 受理)

### A Research on Career Education at Junior High Schools Seen from Students

Hironobu TODA\*

In this study, we analyze career education (career guidance) at junior high schools including “Work Experience (Career Starting Week)” by means of questionnaires sent out to our seniors of 47 students. We also analyze the practical side of career education (career guidance) at junior high schools. Based on the analysis, we examine how career education (career guidance) at junior high schools should be in future.

**Keywords:** career education キャリア教育, Work Experience 職場体験学習, career guidance 進路指導

#### 1. はじめに

キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要があることが、平成11年12月、「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（中央教育審議会答申）において提言された。そして、キャリア教育の実施に当たっては、家庭・地域と連携して、体験的な学習を重視すると共に、学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置づけて計画的に取り組み、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことの必要性なども提言された。

この答申以後、キャリア教育については、平成14年11月、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（国立教育政策研究所）という調査研究報告書が公表されるなど、国レベルでの調査研究が進められてきた。そして、文部科学省は、「キャリア教育推進地域指定事業」（平成16年度）、「キャリア教育実践プロジェクト」（平成17年度）を実施するなど、さまざまな施策を実施し始めた。

広島県においても、平成16年度から上記の事業指定を受け、「キャリア教育推進地域指定事業」は、「尾三地域」（瀬戸田・南・東生口小学校、瀬戸田・生口中学校、瀬戸田高等学校）で実施された。また、「キャリア教育実践プロジェクト」は、「竹原市地域」（竹原・忠海・賀茂川・

吉名中学校）・「府中市地域」（第一・第二・第三・第四・上下中学校）・「庄原市地域」（西城・庄原・総領・東城・小奴可・比和・口和・高野中学校）・北広島町地域（芸北・大朝・豊平・千代田中学校）の4地域で実施された。そして、平成17年度から、「将来の夢や目標をもち、その実現に向けて高い学習意欲をもっている。」、「『働くこと』に対して高い関心・意欲をもち、その意義を理解している。」、「職業をもつ社会人として求められる資質・能力を身に付けている。」、「自立意識をもち、豊かな人間性を身に付けている。」等を「目指す児童生徒像」として、広島県独自の「キャリア教育推進事業」が、「広島地域」（玖波・小方・大竹小学校、玖波・小方・大竹中学校・大竹高等学校）・「呉・賀茂地域」（板城・御園宇小学校、向陽中学校、西条農業高等学校）・「尾三地域」（竹原小学校、竹原中学校、竹原高等学校）・「福山地域」（常金丸・新市中央・新市・戸手小学校、常金・新市中央中学校、戸手高等学校）・「備北地域」（西城・美古登・小島原小学校、西城中学校、西城紫水高等学校）の5地域で実施され、効果的なキャリア教育の実践モデルを開発するための学習指導案・教材開発やそれらの有効性の検証が取り組まれた。その他、「キャリア教育推進フォーラム（後に「広島県キャリア教育推進フォーラム」）」が実施されると共に、中学校・高等学校・特別支援学校の全ての進路指導主事を対象とした「キャリア教育コーディネー

\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

トセミナー」が実施されたり、「文部科学省研究開発校キャリア教育の研究」が庄原小学校・庄原中学校で、「厚生労働省職業意識形成支援事業」が宮島中学校・芦品まなび学園高等学校等で、「経済産業省地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」が三次市市内全小学校・広島市内中学校で、「経済産業省起業家教育促進事業」が草津小学校・湯来中学校等で実施された。

また、広島県の教員の資質・能力の向上に資する教員研修機関である「広島県立教育センター」における講座においても平成17年度は次の取り組みがなされた。「初任者研修（小学校，中学校，高等学校，盲・ろう・養護学校小学部及び中学部・高等部）講座」の中の「キャリア教育の視点と方法」，「教職経験者研修（6年目）—小学校・中学校・高等学校—講座」の中の「キャリア教育推進の視点と方法」，「10年経験者研修講座—進路指導—」の中の「キャリア教育の意義・内容」，「キャリア発達に視点をあてた進路指導年間指導計画案の作成」，「啓発的体験活動の充実を目指す進路指導年間指導計画案の作成」，「新任進路指導主事（中・高等学校）研修講座」の中の「キャリア教育とキャリア・カウンセリング」，「キャリア教育における指導と評価」，「キャリア教育の進め方」講座の中の「キャリア教育の実際」，「キャリア教育の意義・内容」，「年間指導計画の改善」，「キャリア教育とキャリア・カウンセリング」講座の中の「キャリア教育についての理解」，「カウンセリングについての理解」，「キャリア教育とキャリア・カウンセリングに係る各校の課題」，「キャリア教育についての実践報告Ⅰ～Ⅲ」，「キャリア教育とキャリア・カウンセリングの展開と課題」，「キャリア・カウンセリングのプロセス—相談関係づくりの大切さを知る—」，「キャリア教育に係る計画の改善—キャリア・カウンセリングの視点を明確にして—」，「教員長期研修生スペシャルウィーク」の中の「キャリア教育について」，「21世紀教育セミナー」の中の「キャリア教育の実践にあたって—キャリア・カウンセリングの普及と実践—」等々である。また、「教員長期研修講座」においても、初めて「キャリア教育」が設けられ、研修生（前期：小学校教諭1名・中学校教諭1名，後期：中学校教諭1名）を受け入れた。

このように、広島県において、平成16年度以降、急速にキャリア教育が実践されるようになり、中学校に焦点を当てると、事前・事後指導を含めた「職場体験学習」（キャリアスタートウィーク）が重要視されるようになっていった。三村隆男（平成16年）は、「職場体験の実施率は公立中学校で86.9%に上り、『勤労にかかわる体験的学習』においても相対的に職場体験が多数を占める一方で

勤労観を育成するその他の活動が減少している中、職業観育成の基礎となる勤労観の育成が十分なされないままで、職業観の育成に移行してしまっているのではないかと危惧される。」<sup>1)</sup>と述べており、この観点を含めて中学校で行われているキャリア教育（進路指導）の在り方を考えていく必要がある。本稿では、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年生（47名）に、「職場体験学習」（キャリアスタートウィーク）を含めた、中学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを分析することで、より望ましい中学校におけるキャリア教育（進路指導）の在り方を考察する。

## 2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、広島女学院大学幼児教育心理学科4年生（47名）の学生に対して、「職場体験学習」（キャリアスタートウィーク）を含めた、中学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、中学校時代のキャリア教育（進路指導）の在り方を分析することである。また、その分析を元に、今後の中学校におけるキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したい。

研究の方法としては、次の表1に示した質問のアンケートを実施し、得られたデータ・記述を分析していく。なお、アンケートに関しては、平成27年7月21日に実施した。アンケート項目の「1」に関しては、平成11

表1 中学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケート

- |  |
|--|
| <p>1 中学在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄に○を付けてください（複数回答も可です）。</p> <p>①自分の個性や適性を考える学習</p> <p>②進路選択の考え方や方法</p> <p>③進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方</p> <p>④上級学校の教育内容や特色</p> <p>⑤将来の生き方や人生設計</p> <p>⑥学ぶことや働くことの意義目的</p> <p>2 上記以外で、キャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄を書いてください。</p> <p>3 キャリアスタートウィーク（職場体験学習）について思い出して書いてください。</p> <p>(1) どこに職場体験学習に行きましたか。</p> <p>(2) その時に、職場体験学習は有用だと思いましたか。理由も書いてください。</p> <p>(3) 今現在、中学校時代の職場体験学習は有用であったと思いますか。理由も書いてください。</p> <p>4 中学校の先生方に、キャリア教育（進路指導）に関して要望を書いてください。</p> <p>5 自分の生き方に影響を与えた中学校の先生はどのような人でしたか。</p> |
|--|

年3月に文部省から出された、「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書」を参考にした。

### 3. 中学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際とその分析・考察

この節では、前節で示したアンケート項目に従って、中学校におけるキャリア教育（進路指導）の実際についてデータ・記述を元に分析・考察をしていく。

#### (1) 中学在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

この項では、次に示す表2の結果を元に分析・考察を行う。

表2 中学在学時にキャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

	選択事項	名	%
1	自分の個性や適性を考える学習	28	59.6
2	進路選択の考え方や方法	24	51.1
3	進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方	16	34.0
4	上級学校の教育内容や特色	12	25.5
5	将来の生き方や人生設計	22	46.8
6	学ぶことや働くことの意義目的	12	25.5

表2で最も多かった項目は、「自分の個性や適性を考える学習」で、28名（59.6%）と、60%近い学生が指導して欲しかったと回答している。中学時代は思春期に入り、「自分とはどのような人間なのか」、「自分の長所や短所は何か」、「自分の適した職業は何なのか」という自己に関わる悩みを持つ時期であり、このような結果になったのではなかろうか。次に多かった項目は、「進路選択の考え方や方法」で、24名（51.1%）と、半数以上の学生が指導して欲しかったと回答している。中学校では、十分に時間を掛け、意図的・計画的に1年生から3年生の進路指導全体計画を作成し、これらのことについて指導していると考えられるが、中学生にとっては不十分であるということが分かる。3番目に多かった項目は、「将来の生き方や人生設計」であり、22名（46.8%）と半数近い学生が指導して欲しかったと回答している。中学生になると、高等学校等への進学の問題が目の前に現れ、今後の自分がどのような人生をおくるようになるか真剣に考え出す時期でもあり、このような結果になったのではなかろうか。

16名（34%）と、3分の1の学生が指導して欲しかっ

た事項としてあげられるのが、「進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方」である。中学校では、十分な進路情報の提供やその活用の仕方を指導するようにしていると考えられるが、中学生にとってはやや不十分であるということが分かる。最も少なかった項目は、「上級学校の教育内容や特色」と「学ぶことや働くことの意義目的」で、共に12名（25.5%）が選択している。上級学校の教育内容や特色は地元に住居していれば自然と情報が入ってくる事柄であったり、学ぶことや働くことの意義目的は小学校時代から考えさせられてきた内容であると思われるので、このような結果になったと考えられる。

#### (2) 表2以外で、キャリア教育（進路指導）に関わって指導して欲しかった事柄

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している（全ての枠内同様）。

- ・どのような職業があり、どのようにして就くことができるのか知る学習。 8
- ・職場体験をしたかったです。 2
- ・保育士についての細かな情報。
- ・プリントを空白にしても何も言われなかった。
- ・自分にあった将来について深く考えること。
- ・もっといろいろなことを経験することの大切さを指導して欲しかった。
- ・小論文の書き方をもっと指導して欲しかった。
- ・職場体験に行く上で、挨拶の仕方や基本的な礼儀などの確認。
- ・個性を知った上で高校を勧めて欲しかった。
- ・個人面談をもっとして欲しかった。
- 「空白・特になし」 31（66.0%）

ここで特徴的なことは、31名（66.0%）が、「空白」ないしは「特になし」としていることである。7割近くの学生が、表2に示した中学校時代の指導内容への充実を求めていることが考えられる。

上記の学生の記述で一番特徴的なことが、8名（17%）が、「どのような職業があり、どのようにして就くことができるのか知る学習」の指導を求めており、より具体的に詳細な将来の職業選択に向けた情報提供へのニーズがあることが分かる。中学校時代は、上級学校の情報は身近なものとしてあるが、社会で生きていく上での職業に対して漠然とした知識しかないためこのような記述が見られたのではなかろうか。

また、次の項で数字が5名（10.6%）と出ているが、

ここで2名の学生が、「職場体験をしたかったです」と記述している。これらの学生は、広島県外から来た学生と私立中学校出身の学生で、職場体験学習を一切行っていない。

この他、「プリントを空白にしても何も言われなかった」、「小論文の書き方をもっと指導して欲しかった」、「個性を知った上で高校を勧めて欲しかった」、「個人面談をもっとして欲しかった」など、より細やかで具体的な事柄や個人的な対応を求める記述が見られた。

### (3) 職場体験学習の場所

この項では、次に示す職場体験学習の場所の結果を元に分析・考察を行う。

- ・ 保育所16
- ・ スーパー 5
- ・ 幼稚園 4
- ・ 小学校 4
- ・ 病院 4
- ・ 美容院 2
- ・ 温泉施設 2
- ・ 飲食店 2
- ・ リハビリセンター
- ・ 老人ホーム
- ・ 図書館
- ・ ゴルフ場
- ・ 未実施5

アンケート対象者が「幼児教育心理学科」(学生の就職先は保育所・幼稚園・小学校が9割以上)に在籍する学生であるためか、職場体験学習先を「保育所・幼稚園・小学校」に選択した人数は合わせて25名(53.2%)と半数以上となっている。必ずしも希望した職場体験学習先を選択できないことも考えられ、仕方なく他の職場体験学習先に行った学生も多いのではなかろうか。また、上級学校(大学)選択や就職選択に中学校時代の職場体験学習が多大な影響を与えていることも考えられる。

### (4) 職場体験学習の有用性

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

#### ○「有用である」 33 (70.2%)

- ・ 保育園で子どもたちと一緒に遊べたし、保育士の人に実際にお話を聴くことができ、やる気や意欲が湧き、なりたいたと凄く思えました。保育士の仕事について具体的なイメージが湧き、目指したいと思った。 9
- ・ あまり大人の人と関わる機会がなかったので、社会勉強になったと思います。 6
- ・ 少しだけ将来について考えることができたから。 2
- ・ どのような職業に就きたいか迷っていたので参考になった。 2
- ・ 進路決定(小学校)の後押しになった。
- ・ なりたいと思う職業(保育士)や興味のあることについて実際に体験できたから。
- ・ 司書の仕事も良いと思えたから。

- ・ 楽しかったから。
- ・ 人生勉強になった。
- ・ 大人と関わることができたから。
- ・ 大学生でアルバイトを始めるまで、そのような機会が無いので。
- ・ 希望したところ(幼稚園)には行けなかったけど、希望以外の職(老人ホーム)の良さにも気付けた。
- ・ 仕事(温泉施設)について知ることができたので良かった。そこでの楽しさや大変さを知ることができた。
- ・ 初めて接客(スーパー)を体験して、仕事の厳しさや大変さ、やりがいを学ぶことができたから。
- ・ 実際の職場(病院)で、どのような仕事をされているのかを間近で見ることができ、働くこと全体像を何となくでもつかむことができたから。
- ・ 早くから働くとは何かを、実際に体験することで、将来を考える上で大切だと思う。
- ・ 働いている人がどのような気持ちを仕事に対して持っているかよく分かったから。
- ・ 裏方の姿(スーパー)を知ることができたから。

#### ○「有用ではない」 7 (14.9%)

- ・ 一日しか体験(美容室)していないから。
- ・ 特に考えもなく行ったため。
- ・ 美容室で特に何もせず立っていたため。
- ・ 体験先(公立保育所)で嫌な思いをしたため。
- ・ 働くことについて余り考えていなかったため。

職場体験学習の有用性に関して、職場体験学習先を自分の興味関心がある「保育所・幼稚園・小学校」に選択した人数が合わせて25名(53.2%)と半数以上となっていることも影響してか、33名(70.2%)の学生が、「有用である」と回答している。9名(19.1%)と最も多かった記述が、「保育園で子どもたちと一緒に遊べたし、保育士の人に実際にお話を聴くことができて、やる気や意欲が湧き、なりたいたと凄く思えました。保育士の仕事について具体的なイメージが湧き、目指したいと思った。」であり、「進路決定(小学校)の後押しになった。」「なりたいたと思う職業(保育士)や興味のあることについて実際に体験できたから。」という記述も見られる。

また、「あまり大人の人と関わる機会がなかったので、社会勉強になったと思います。」「人生勉強になった。」「大人と関わることができたから。」と、社会や大人と関わることで多様な価値観に触れることができ、学校では学べない勉強をすることが有用性に繋がったと考えられる。

そして、「少しでも将来について考えることができたから.」,「どのような職業に就きたいか迷っていたので参考になった.」,「早くから働くとは何かを,実際に体験することで,将来を考える上で大切だと思う.」と,自己の将来設計に関しての有用性を感じている学生も見られた。

さらに、「希望したところ(幼稚園)には行けなかったけど,希望以外の職(老人ホーム)の良さにも気付けた.」,「仕事(温泉施設)について知ることができたので良かった.そこでの楽しさや大変さを知ることができた.」,「初めて接客(スーパー)を体験して,仕事の厳しさや大変さ,やりがいを学ぶことができたから.」,「実際の職場(病院)で,どのような仕事をされているのかを間近で見ることができ,働くこと全体像を何となくでもつかむことができたから.」,「働いている人がどのような気持ちを仕事に対して持っているかよく分かったから.」と,働くことに関しての意義ややりがいについて学べたことが有用性に繋がっている記述も見られた。

反面,7名(14.9%)と少数ながら,「有用ではない」と回答した学生も見られる。「特に考えもなく行ったため.」,「働くことについて余り考えていなかったため.」と事前学習での指導が十分でなかったと考えられる記述や,「美容室で特に何もせず立っていたため.」,「体験先(公立保育所)で嫌な思いをしたため.」と,職場体験当日のトラブルが有用性を低減させていると考えられる。

#### (5) 現時点での職場体験学習の有用性

この項では,次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

##### ○「有用である」 30 (63.8%)

- ・ 幼児教育系の大学進学の見込み材料の一つになったから。職場体験学習があったから今の大学にいます。8
- ・ 将来につながったから。将来の夢が広がったから。進路選択について考えるきっかけになったから。7
- ・ 職に対する意識が変わった。
- ・ 身近な働く人は家族,先生くらいだと思うので,自分自身が体験することで気付きが多くあるから。
- ・ 有用ではあるが,規律や礼儀をしっかり守らせ,目的意識をはっきりとさせた事前指導が不可欠だと思う。
- ・ なかなか体験することができない貴重な経験ができ,良かったと思うから。
- ・ 自分は希望するところではなかった(図書館)が,このような仕事もあるのかとわかったから。
- ・ 働くことへの全体像をつかむことができたから。
- ・ 病院に職場体験に行き,今の保育士希望につながってはいないが,働くことの大切さを初めて理解できたか

ら。

- ・ 働くことについて少し考えることができるから。
  - ・ 中学校時代はボランティア活動が少ないため,社会を知るために有効的であると思う。しかし,中学生で夢を見つけ努力することは難しいと思うので,高校時代にも職場体験を行って欲しい。
  - ・ 中学校時代から子どもに関わる仕事がしたいという気持ちが変わっていないので,児童館に行けたのは良かった。
  - ・ 社会のマナーやルールを知ることができたので良かった。
  - ・ 実際に職場体験(スーパー)することで,学校だけでは学べないことがたくさんあるから。
  - ・ 高校進学にも関わっており,職場体験を行って特に保育の勉強をしたいと思いました。
  - ・ 有用ではあると思うけれど,3日間だけだったので,仕事は覚えることができなかったし,お客様のような対応の感じが強かった。
  - ・ 進路選択の幅が広がるから。
- 「有用ではない」 5 (10.6%)
- ・ 一日しか体験(美容室)していないから。しかも,別の部屋に連れて行かれ,パーマの練習しかしていないから。
  - ・ 行きたいところに行けなかったから。
  - ・ 病院に行き,将来の役に立っと思えないから。
  - ・ 飲食店に行きましたが,お客様も中学生だと分かると態度が変わったりして嫌な体験だったから。
  - ・ スーパーのバイトの人から指導され,良さを感じることはできなかったため。
- 「有用とは言い切れない」 4 (8.5%)
- ・ 詳しい「先生の仕事」を学ぶというよりは,子どもとの関わりや手伝いしかしていなかったから,有用とは言い切れない。
  - ・ 仕事(温泉施設)については知ることができたが,自分の将来の夢(保育士)には関係ないから。
  - ・ 私は希望していない美容院に行きましたが,職場体験をさせて頂く環境によるように思います。
  - ・ 中学校時代の職場体験では楽しいばかりで,仕事のつらさを体験できなかったから,現実とちょっと違う気がするから。

中学校時代に職場体験学習を経験し,10年近く経っての振り返りを行って,現時点での職場体験学習の有用性について回答して貰ったが,「有用である」と回答した人数は30(63.8%)と,若干減少はしたがほぼ変化は見ら

れない。

ここでは、「幼児教育系の大学進学の見込み材料の一つになったから。職場体験学習があったから今の大学にいます。」、「将来につながったから。将来の夢が広がったから。進路選択について考えるきっかけになったから。」という記述を15人(31.9%)がしており、「高校進学にも関わっており、職場体験を行って特に保育の勉強をしたいと思いました。」という記述からも、上級学校(高等学校・大学)への進路選択への大きな動機付けになったから有用性を感じていると考えられる。

また、「身近な働く人は家族、先生くらいだと思うので、自分自身が体験することで気付きが多くあるから。」、「なかなか体験することができない貴重な経験ができた、良かったと思うから。」、「病院に職場体験に行き、今の保育士希望につながってはいないが、働くことの大切さを初めて理解できたから。」、「働くことについて少し考えることができるから。」という記述が見られるように、実際に職場を体験することの重要性や働くことの大切さや意義について考えることができたことから有用性を感じていると考えられる。

そして、「自分は希望するところではなかった(図書館)が、このような仕事もあるのかとわかったから。」、「働くことへの全体像をつかむことができたから。」、「進路選択の幅が広がるから。」という記述が見られるように、働くことや仕事全体への理解が進んだことから、有用性を感じていると考えられる。

反面、「有用ではない」・「有用とは言い切れない」と回答した学生が9名(19.1%)存在をしており、職場体験学習に否定的な記述が見られる。

「有用ではない」と回答した学生の記述を見てみると、「一日しか体験(美容室)していないから。しかも、別の部屋に連れて行かれ、パーマの練習しかしていないから。」、「飲食店に行きましたが、お客様も中学生だと分かると態度が変わったりして嫌な体験だったから。」、「スーパーのバイトの人から指導され、良さを感じることができなかったため。」と、職場体験当日のトラブルが有用性を低減させていると考えられる。また、「行きたいところに行けなかったから。」、「病院に行き、将来の役に立っと思えないから。」など、事前学習での指導が十分でなかったと考えられる記述も見られる。

「有用とは言い切れない」と回答した学生の記述を見てみると、「詳しい『先生の仕事』を学ぶというよりは、子どもとの関わりや手伝いしかしていなかったから、有用とは言い切れない。」、「中学校時代の職場体験では楽しいばかりで、仕事のつらさを体験できなかったから、現実

とちょっと違う気がするから。」と、大学で幼稚園実習や保育所実習・施設実習を体験してきた学生からは、中学校時代の職場体験学習は、不十分な内容であったと考えられる記述が見られる。

#### (6) キャリア教育(進路指導)に関する要望

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・自分は何がしたいのかを考える時間を増やして欲しい。2
  - ・一つの職場だけでなく、いろいろな職場を体験したい。2
  - ・大学について知りたかったから、大学についての指導もして欲しい。大学について知り高校を決めることができるから。2
  - ・働くための最低限のマナー(挨拶や礼儀・態度など)をしっかり教えて欲しい。2
  - ・生徒一人ひとりのことを良く理解して進路指導を行って欲しい。2
  - ・高校についてだけではなく、その後の将来を見据えた内容を話して欲しかった。高校に入って終わりではないと考えているので。
  - ・どのような職業があるのか、またあらゆる職業の良さについて教えて欲しい。
  - ・体験のみでなく、見学やお話を聞く、またはお話を聞きに行くということもあつたら良かったと思いました。
  - ・職場体験における目的を、体験先としっかりと共有して欲しい。
  - ・高校について調べる授業が多かったので、自分の個性や適性を考える授業も大切だと思う。
  - ・将来について考える時間を増やして欲しい。
  - ・世の中の夢ばかりではなく、現実をしっかり教えると、より真剣に考えると思う。
  - ・成績ばかりではなく、内面を見た方が良い。
  - ・進路指導の時間をもっと増やした方が良かった。職場体験をする場所を選ぶ前に、それぞれの仕事の良さを学習させて欲しい。
  - ・もっと個人的に指導して欲しかったです。
  - ・職場体験で言えば、もっと本気で仕事をさせた方が良かった(立ったままの生徒もいた)。
  - ・自分の行きたい職場に行かせて欲しかった。
  - ・さまざまな職種があつてこそ人間は生きて生活ができることを伝えて欲しい。
- 「特になし・空欄」27(57.4%)

中学校時代のキャリア教育（進路指導）に関する要望としては、「特になし・空欄」の割合が、27人（57.4%）となっており、半数以上の学生が概ね満足をしていると考えられる。

他方、「自分は何がしたいのかを考える時間を増やして欲しい.」、「高校についてだけではなく、その後の将来を見据えた内容を話して欲しかった. 高校に入って終わりではないと考えているので.」、「高校について調べる授業が多かったので、自分の個性や適性を考える授業も大切だと思う.」、「将来について考える時間を増やして欲しい.」という記述に見られるように、自己理解を深める時間や、将来どのような生き方をすることが自分にとって望ましいかを考えさせる時間の確保を望む学生の要望が見られた。

また、「一つの職場だけでなく、いろいろな職場を体験したい.」、「どのような職業があるのか、またあらゆる職業の良さについて教えて欲しい.」、「職場体験における目的を、体験先としっかりと共有して欲しい.」、「進路指導の時間をもっと増やした方が良いと思った. 職場体験をする場所を選ぶ前に、それぞれの仕事の良さを学習させて欲しい.」などの記述に見られるように、職場体験学習を実施する際の事前・事後指導の充実を求める要望が見られた。

そして、「生徒一人ひとりのことを良く理解して進路指導を行って欲しい.」、「成績ばかりではなく、内面を見た方が良い.」、「もっと個人的に指導して欲しかったです.」などの記述に見られるように、より細やかで個人に密着したキャリア教育（進路指導）を望む要望が見られた。

#### (7) 自分の生き方に影響を与えた中学校の先生

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・相談に親身になって聴いてくれ、意見をくれる先生. 11
- ・常に生徒主体に考えてくれた先生. 2
- ・生徒指導に厳しく、善悪の判断をきちんと教えてくれた. 2
- ・職業に専念し、やりがいを感じている先生.
- ・体育が好きで、楽しくスポーツをする体育の先生.
- ・音楽が好きで音楽の先生. 私も今でも音楽が好きで、初めて階名を書かずに音符が読めるようになった.
- ・明るく元気な先生.
- ・普段はおちゃらけたことをしたりするのに、真面目な場面ではしっかり指導して下さる先生.
- ・生徒一人ひとりのことをよく考え、味方になってくれ

る.

- ・どうして自分が教師になったのか教えてくれた先生.
- ・さまざまな先生が、私が困っているとき支えてくださった.
- ・中学2年生の担任の先生. 学級崩壊になりかけた時、荒れているクラスメイトの隣の席でお世話をしたいと頼まれた. 数ヶ月ずっとそうしたおかげで、人に勉強を教えることの楽しさを知ることができ、教師を目指す一つの理由になった.
- ・進路を決めるとき、私の性格に合った高校を選んで下さった.
- ・担任の先生が自分のことを最後まで信じてくれた. その先生が、「おまえは、本当にやればできる」と言ってくれたから.
- ・部活動の顧問の先生. 家庭でいろいろあったけど、全部わかって支えてくれたし、声を掛けてくれたから.
- ・おばあちゃんのような全てを包み込んでくれるような優しい先生でした.
- ・部活動でお世話になった非常勤の先生で、とても親身になってくれました.
- ・先生自身がいつも本気で楽しそうに取り組んでいた部活動の顧問の先生. 自分の知らなかった私の能力を見つけてくれ、適した役職に付けてくれたことで、自分に自信が付き、内気な性格が改善した.
- ・国語の先生で、姉のことが大好きな先生で、いつも比べるような発言をしてくる先生だった. このような人にはなりたくないと思った.

○「特になし・空欄」17人（36.2%）

キャリア教育（進路指導）は、自己の生き方と将来の職業との関わりを考えさせる教育であるが、中学生が自己の生き方を考えていく場合に、普段から接する職業人としての中学校教諭との接触による影響が多いと考えられる。

自分の生き方に影響を与えた中学校の先生についての回答で、「特になし・空欄」が17名（36.2%）ではあったが、逆に、影響を与えた先生についての肯定的な記述が29名（61.7%）と、6割以上の学生に見られる。中学校の先生の影響力が多であることが分かる。

最も多かった記述が、「相談に親身になって聴いてくれ、意見をくれる先生.」であり、11名（23.4%）となっている。同様に、「生徒一人ひとりのことをよく考え、味方になってくれる.」、「さまざまな先生が、私が困っているとき支えてくださった.」、「部活動の顧問の先生. 家庭でいろいろあったけど、全部わかって支えてくれたし、

声を掛けてくれたから.」,「部活動でお世話になった非常勤の先生で,とても親身になってくれました.」という記述も見られる.中学校時代は,クラスやクラブ活動など日常生活での友人関係や先輩・後輩との人間関係のトラブルを抱えやすく,また高校受験に向けた学習面での不安やプレッシャーを感じる生徒も多く,人生の先輩でもある身近な先生に悩みを相談するケースが多い.その際,細やかなアドバイスをしてくれたり,共感してくれたりし,的確に対応してくれる先生に対して親近感を抱くことによって,自己の生き方のモデルとなっていくのではなかろうか.

また,「生徒指導に厳しく,善悪の判断をきちんと教えてくれた.」,「職業に専念し,やりがいを感じている先生.」,「体育が好きで,楽しくスポーツをする体育の先生.」,「音楽が好きな音楽の先生.私も今でも音楽が好きで,初めて階名を書かずに音符が読めるようになった.」,「普段はおちゃらけたことをしたりするのに,真面目な場面ではしっかり指導して下さる先生.」と,中学校教員として自己の仕事に専心し,一所懸命に指導する姿勢に対して生き方を学び,影響を受けたという記述が見られる.

他方,唯一の記述ではあるが,「国語の先生で,姉のことが大好きな先生で,いつも比べるような発言をしてくる先生だった.このような人にはなりたくないと思った.」と,正に反面教師として,否定的な記述も見られた.

#### 4. おわりに

本稿では,広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年生(47名)の学生に対して,「職場体験学習」(キャリアスタートウィーク)を含めた,中学校時代のキャリア教育(進路指導)に係るアンケートを実施し,中学校時代のキャリア教育(進路指導)の在り方を分析してきた.最後に,その分析を元に,今後の中学校におけるキャリア教育(進路指導)の在り方を考察したい.

表2の分析から,今後,最も充実していくべきキャリア教育(進路指導)として,「自分の個性や適性を考える学習」があげられる.今までも,中学校現場で実施されてきた事柄ではあるが,時間的な制約があると考えられるが,より個々に対応した綿密な指導が望まれる.自己理解を深化させるためにも,学級活動における行事等を活用したり,道徳の時間と関連付けて,指導の徹底をはかる必要がある.また,「進路選択の考え方や方法」に関する指導の充実の要望が半数を超えていたり,「将来の生き方や人生設計」に関する指導の充実の要望が半数近く

あるので,さまざまな職業の紹介やそれに関わる職業人の生き方等を学ばせる学習の充実が望まれる.単に上級学校への進路選択にとどまらず,将来の職業の進路選択と勤労観の醸成を育むために卒業生等の講話を聞く機会をより多く設けるなどの取り組みの充実が望まれる.

表2以外の,「キャリア教育(進路指導)に関わって指導して欲しかった事項」としては,「どのような職業があり,どのようにして就くことができるのか知る学習」の指導を求めており,より具体的で詳細な将来の職業選択に向けた情報提供をしていく必要がある.職業の選択に関してはさまざまな書籍や資料があるので,今まで以上に学級にそれらを常備し,生徒の職業選択に関する興味関心を高める仕掛けや,生徒自身に職業選択について考えさせる時間の増加が求められる.全体的に,今のキャリア教育(進路指導)の更なる充実を図る必要がある.

職場体験の場所に関しては,中学校の置かれた地域によって制約があるため軽々に増加は望めないが,できるだけ生徒が希望する職場が選択できるように配慮することが望まれる.また,希望する職場が選択できない場合に,勤労観の育成という観点からの事前・事後指導の充実が必要である.

職場体験の有用性に関しては,体験当時も10年近く経過した現在でも多くの学生が認めている.しかし,少数ではあるが,有用ではないと回答している学生もおり,事前指導の更なる徹底により,勤労観の育成を基盤とした職場体験学習の意義や,生きていくことと働くこととの関連や意味について深く考えさせる必要がある.また,職場体験学習当日のトラブルに関しても想定されることで,そのようなマイナスの体験からも学ぶべきことがあることを事前に考えさせておくことが求められる.

今後のキャリア教育(進路指導)に関する要望では,半数以上の学生が概ね満足をしていると考えられるが,自己理解を深める時間や,将来どのような生き方をするのが自分にとって望ましいかを考えさせる時間の確保の充実が望まれる.このことに関しては,中学校では重要な位置を占めるクラブ活動を含め学校教育全体で意図的・系統的に取り組む必要がある.

自分の生き方に影響を与えた中学校の先生についての回答からは,その影響力の強さを考えた場合に,より細やかな個々に応じた対応に心掛けると共に,的確な助言・意見をしていくことが求められる.そして何より,職業人のモデルとして普段から生徒に関わっていくことが必要とされる.



**引用文献**

1) 三村隆男：キャリア教育入門，実業之日本社，p. 90，  
2004

**参考文献**

文部科学省「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（中央教育審議会答申）平成11年12月  
国立教育政策研究所「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育

の推進について」平成14年11月  
広島県教育委員会「キャリア教育実践の手引き」広島県教育  
委員会ホームページホットライン教育ひろしま  
(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>) 平成27  
年10月21日  
文部省「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書」平成11年3月